

平成22年8月三木市教育委員会（定例会）会議録

◇ 日 時

- 1 開 会 平成22年8月18日（水）午後2時00分
- 2 閉 会 平成22年8月18日（水）午後5時40分

◇ 場 所 三木市役所 5階 大会議室及び教育長室

◇ 会 議

- 1 開 会
- 2 会議録署名委員の指名
- 3 前回会議録の承認
- 4 審議事項
- 5 その他
- 6 閉 会

◇ 会議に出席した者の職氏名

| | | | | |
|-------|----|------------|-----|-----|
| 教育委員 | 1番 | 教 育 委 員 長 | 清 水 | 里 子 |
| | 2番 | 教育委員長職務代行者 | 里 見 | 俊 實 |
| | 3番 | 教 育 委 員 | 稲 見 | 秀 穂 |
| | 4番 | 教 育 委 員 | 水 島 | 慶 子 |
| | 5番 | 教育委員（教育長） | 松 本 | 明 紀 |
| 事務局 | | 教 育 部 長 | 篠 原 | 政 次 |
| | | 教育部政策主幹 | 告 野 | 幹 也 |
| | | 教育総務課長 | 清 水 | 正 則 |
| | | 教育環境整備課長 | 井 上 | 博 務 |
| | | 学校教育課長 | 穂 積 | 正 則 |
| | | 文化スポーツ振興課長 | 松 村 | 正 和 |
| | | 教育センター所長 | 梶 本 | 佳 照 |
| | | 図 書 館 長 | 近 藤 | 昌 樹 |
| | | 教育総務課課長補佐 | 稲 岡 | 孝 恵 |
| | | 教 育 総 務 課 | 西未路 | 雅 恵 |
| 傍 聴 者 | | 0人 | | |

◇ 会議内容

1 開 会

清水委員長が、平成22年8月三木市教育委員会定例会の開会を宣言した。

2 会議録署名委員の指名

清水委員長が、本日の会議の会議録署名委員に、里見委員長職務代行者と松本教育長を指名した。

3 前回会議録の承認

清水委員長が、平成22年7月定例会及び臨時会（7月30日開催分）並びに8月臨時会（8月4日及び10日開催分）の4件の会議録の承認について諮り、承認された。

4 審議事項

なし

5 そ の 他

(1) 協議事項

清水委員長が、協議事項7 市立幼稚園教育環境整備方針（案）について及び協議事項8 学校における保護者対応についての2件の協議事項があることを報告した。

なお、協議事項7は政策形成段階の案件であり、協議事項8は個人情報を含む案件であることから、三木市教育委員会会議規則第7条第1項ただし書きの規定により、いずれも秘密会として、日程の最後に協議することについて諮り、全員一致で同意された。

(2) 報告事項

ア 学校施設の耐震化の状況について

○ 井上教育環境整備課長が次のように報告した。

文部科学省が、平成22年7月21日に全国公立学校施設耐震改修状況調査結果を公表した。

それによれば、本年4月1日現在の小・中学校の耐震化率は、全国が73.3パーセント、兵庫県が73.9パー

セントとなっている。

一方、三木市の小・中学校の耐震化率は66.3パーセントであり、全国及び兵庫県と比較して約7ポイント低い状況である。

これについては、本年度に、小学校6校10棟、中学校2校4棟の改修工事を実施することとしており、これが完了すれば、年度末の耐震化率は85.0パーセントになる。

さらに、平成23年度には小学校6校7棟、中学校4校5棟の耐震化を進める計画であり、これにより、市内小・中学校施設の耐震化率は100パーセントになる。

なお、幼稚園については、12棟中10棟の耐震改修が必要な状況であり、小・中学校の耐震化工事が完了した後、平成24年度から、幼稚園の統廃合計画との整合性を図りながら進める計画である。

イ 学校教育課の主要行事等について

○ 穂積学校教育課長が次のように報告した。

8月3日に第5回定例校園長会を開催し、平成22年度1学期の不登校の状況について、平成22年度三木市特別支援教育推進体制について、ALTの配置について及び教職員の交通事故防止について報告、周知を行った。

この中で、本年1学期末の30日を超える不登校の状況については、小学校3人、中学校32人である。特に中学校については、昨年度末の状況が59人であり、本年度は既に1学期末現在で32人の不登校生徒が発生しているという状況である。

また、教職員の交通事故については増加傾向にあり、特に加害事故が昨年度の4人から本年度8人に増加している。大きな事故には至っていないが、今後の交通事故防止の徹底のために周知を行った。

主要行事については、8月2日に兵庫県立大学の高田一宏准教授を招き人権教育研修会を開催するとともに、8月5日に関西学院大学の横山利弘教授を招いて心の教育講演会を開催し、道徳の授業方法についての研修を行った。

今後の予定については、8月22日に市民じんけんの集

い、27日には、このたびの校長の差別発言を受けて管理職人権研修会を開催するほか、9月1日には始業式、11日に中学校体育祭、また、18日以降各小学校、幼稚園の運動会が実施される。

(委員) 中学校の不登校は、昨年度と比較して減少しているということか。

(事務局) 昨年度から継続して不登校である生徒が随分多く、新たな不登校生徒はそれほど多くない。

しかしながら、昨年度末59人であったものが、1学期末の段階で既に32人あり、増加傾向にあるとみている。

(委員) 教育センターで実施している不登校問題対策事業との連携はどうか。

教育センターに来ている子どもたちは、どのような様子か。

(事務局) 現在、教育センターには11人が在籍している。初めて教育センターに来たときには、自分の気持ちを表現し難い子もいたが、慣れてくると友達同士の中で自分の感情を表現したり、体験活動を皆で楽しみながらコミュニケーションがとれるようになってきている。

すぐに学校に戻れるという状況ではないが、昨年度には77パーセント程度の進学希望があるなど、着実に力をつけているとみている。

ウ 教育センター・青少年センターの主要事業等について

○ 梶本教育センター所長が次のように報告した。

7月27日から8月17日までの間に、困り感に寄り添う支援の実際や情報モラル教育のABC、メディア活用基本スキルなどの専門講座15講座が終了し、受講した教職員からは好評を得ている。中でも、8月9日に植松電気の植松努取締役を招いて実施した未来を切り拓く講演会は、受講者から、再招聘の希望が出るほどの好評であった。

引き続き、この夏休み後半にも9つの専門講座を開催するほか、市民講座、特別支援教育のテーマ別研修を開催するとともに、不登校問題対策事業を推進していく。

一方、青少年センターでは、小学校区別に人の目の垣根隊隊員との意見交換会を進めており、8月9日に緑が丘東小学校区で意見交換会を実施した。今後、全小学校区で意見交換会を実施する計画である。

(委員) 専門研修講座の中に、電子黒板に関する講座はあるか。

(事務局) ある。

(委員) 受講した先生方の評価はどうか。

(事務局) コンピュータを使った授業の場合、下を向いて操作することが多くなるが、電子黒板は操作に気をとられることが少なく、子どもたちの顔が見えるといったメリットがあり、電子黒板に対する期待も高く、講座については好評である。

(委員) メディア活用基本スキルとはどのような研修か。

(事務局) 電子黒板の操作やエクセル、パワーポイントの活用などがある。ICT（情報通信技術）を活用した授業を行う上で基礎になるスキル研修と位置づけている。

(委員) 人の目の垣根隊隊員との意見交換会において、何か特徴的な意見はあったか。

(事務局) 学校から行事や短縮授業など登下校の時間に関連するような情報を提供し、隊員からは子どもたちの登下校の様子などを伝えるといった学校と垣根隊との間の情報共有を大切にする連携を図りたいといった意見があった。

そのほか、夏用の制服がもう少し涼しいものにならない

かといった意見もあった。

エ 文化スポーツ振興課の主要行事等について

○ 松村文化スポーツ振興課長が次のように報告した。

事業の実施状況については、第24回三木市吹奏楽祭を7月25日に実施した。出演団体は市内4中学校及び3高等学校の吹奏楽部並びにL・U及び市吹奏楽団であった。

スポーツ振興基金の事業として、バレーボール選手強化練習会、卓球ジュニア選手強化練習会、水泳選手強化練習会を実施した。

バレーボール選手強化練習会には市内の小・中・高校生150人が、卓球ジュニア選手強化練習会には中学校の卓球部員60人とその指導者が、また、水泳選手強化練習会には小・中・高等学校の水泳部員80人が参加した。

ゴルフ協会の事業として、みっきいジュニアゴルフ塾の第1回及び第2回を8月2日と9日に開催し、第1回には44人、第2回には50人の参加者があった。なお、8月23日には最終回となる第3回目を実施する予定である。

また、8月17日には、水泳競技で全国中学校体育大会に出場する自由が丘中学校の薬師里穂さんの激励会を実施した。

一方、今後の事業予定については、9月5日にコミュニティスポーツセンターで剣道範士の鈴木康功8段を指導者に招き剣道指導者研修会を開催するほか、9月10日から10回にわたり、小学校4年生から6年生を対象に、三木山総合公園陸上競技場でジュニア陸上教室を実施する予定である。

オ 図書館の主要行事等について

○ 近藤図書館長が次のように報告した。

(ア) 主要行事等

8月18日、19日に小学校5・6年生10人による1日図書館員事業を実施したほか、8月2日から8月4日には、高校生2人、8月6日から10日には大学生1人をインターンシップとして受け入れた。

(イ) 図書資料の貸出状況

青山図書館オープン後の平成22年7月の1か月間の貸出冊数のとりまとめができた。

市内全館（三木、青山及び吉川図書館並びに自由が丘図書コーナー）の7月の貸出冊数は、70,469冊であり、対前年同月比41パーセント増となった。月間70,000冊は年間に換算すれば84万冊になり、目標とする市民1人当たり貸出冊数10冊に到達するペースとなる。

図書館別の7月貸出冊数は、三木図書館35,013冊、対前年同月比4パーセント増、青山図書館、22,167冊、青山公民館図書コーナー前年同月比84パーセント増、吉川図書館12,184冊、吉川町公民館図書コーナー前年同月比437パーセント増となっている。

また、小学校区別の市民1人当たり月間貸出冊数については、みなぎ台小学校区が1.64冊で最多であり、吉川4小学校区が上位6位までにすべて入っている。このことから、これまで吉川地域と三木地域の間にあった格差が是正された状況になったものと考えている。

(委員) 図書館の利用が伸びているのは嬉しいことである。施設整備、環境整備の効果の大きさを改めて感じる。

(3) 次回定例教育委員会の開催日時について

清水委員長が、次回の定例教育委員会の開催予定日時について諮り、平成22年9月15日（水曜日）、午後2時から開催することを決定した。

6 協議事項（秘密会）

【協議事項7】市立幼稚園教育環境整備方針（案）について

○ 清水教育総務課長が協議事項の内容について説明した。

本案件は、三木市教育委員会会議規則第7条第1項ただし書きの規定により秘密会として審議したため、同規則第32条の規定により、内容については記載しない。

【協議事項 8】学校における保護者対応について

- 穂積学校教育課長が協議事項の内容について説明した。

協議の途中、午後 4 時 2 0 分に委員所用のため会議を暫時休憩した。

午後 5 時 2 0 分に、関係部課長等以外は退席し、会議室を教育長室へ移して、会議を再開した。

本案件は、三木市教育委員会会議規則第 7 条第 1 項ただし書きの規定により秘密会として審議したため、同規則第 3 2 条の規定により、内容については記載しない。

7 閉 会

清水委員長が、平成 2 2 年 8 月三木市教育委員会定例会の閉会を宣言した。